

保護者の皆様

令和6年12月16日

川崎市立登戸小学校
校長 棟居 謙

令和6年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月10日(水)～12日(金)に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月18日(木)に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標(育成を目指す資質・能力、目指す児童像等)の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えします。

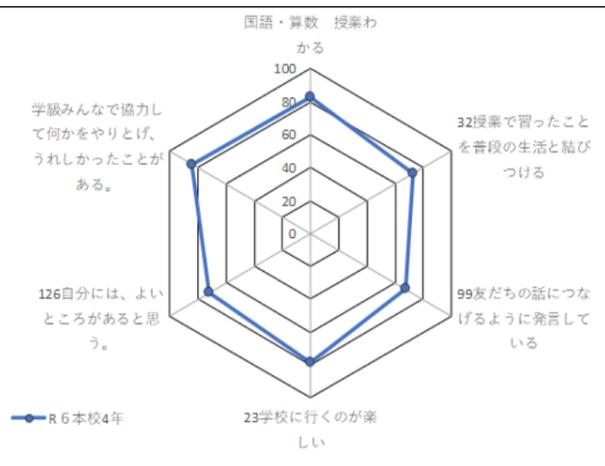
学校教育目標(育成を目指す資質・能力、目指す児童像等)

子どもも大人もワクワクする学校づくり

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 健康でたくましい子
- 最後までやりぬく子

- ☆子どもを理解し(人権・個性)それぞれが生き生きと活動できる学校づくり
- ☆教職員相互の信頼関係に基づき、創意と活力にあふれた学校づくり
- ☆学校・家庭・地域社会が一体となったよりよい教育の実現

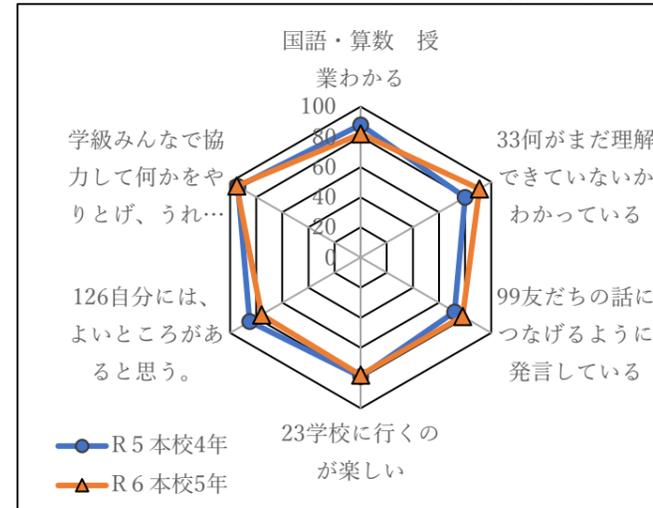
令和6年度 川崎市学習状況調査 4年生



	国語 思考・判断・表現	算数 思考・判断・表現
R6本校4年	59	58
R6全体4年	60	58

- ・「国算の授業がわかる」は約8割でした。国語の授業では自分の考えを整理する時間や課題に対して個々の考えを共有する時間を大切にしていき、より深い考え方ができるようにします。また、算数では、少人数での授業を行い基礎基本の力の定着を大切に授業を進め、今後も「できた実感」を得られるようにします。
- ・「国語 話す・聞く」は86ポイントと高い結果となっています。素直さがあり、授業や友だちの話を最後までしっかり聞く姿が見られます。ただ、「友だちのはなしにつなげるように発言している」では、67ポイントとやや低く、相手に意識した発言をする力が弱い部分です。今後は、人に興味をもち、関わりや経験を増やすことで思考を高めていく力をつけていきます。
- ・「自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝えることができる」は71ポイントでした。自己表現することに課題のある学年なので学芸大会を通して表現する楽しさを経験していきます。児童が友だちと関わり合いながら授業や行事等に取り組むことを大切にしつつ、自分のがんばりや、友だちの良かったところを伝え合う活動を重視していきます。

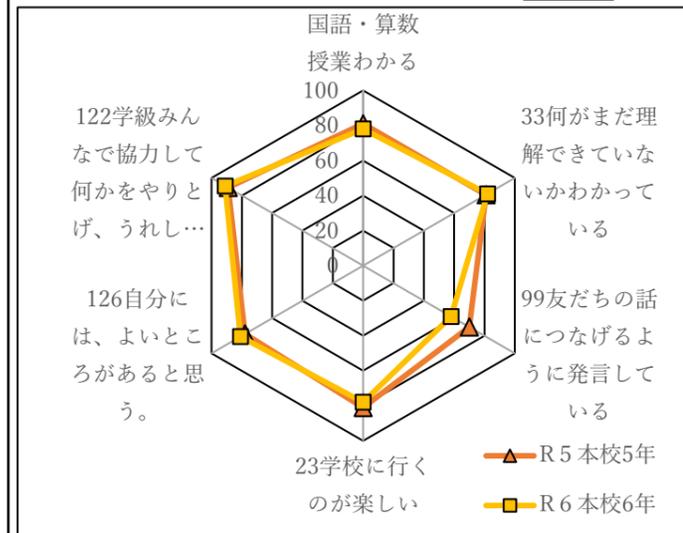
令和6年度 川崎市学習状況調査 5年生



	国語 思考・判断・表現	算数 思考・判断・表現
R5本校4年	66	46
R6本校5年	70	33
R6全体5年	70	38

- ・国語の思考・判断・表現は4ポイント上がっています。授業の中で、友達の発言をよく聞き、自分の考えと比べながら、つなげて発言することを意識していることが、思考の深まりとなっているようです。
- ・算数では、13ポイント下がっています。学習の積み重ねに課題があると考えられます。学年が上がるにしたがって、既習をもとに考える力が必要になります。「何がまだ理解できていないかわかっている」ので、自分の苦手なところに戻って、練習問題に取り組み、基礎固めをしていくことが大切だと考えられます。
- ・学級みんなで協力してやり遂げる喜びを感じることができています。運動会や自然教室といった大きな行事を自分たちでしっかり盛り上げようとしたことができたことや委員会・クラブへの積極的な姿勢を今後も支えていきます。

令和6年度 川崎市学習状況調査 6年生



	国語 思考・判断・表現	算数 思考・判断・表現
R5本校5年	70	33
R6本校6年	62	29
R6全体6年	63	31

- ・「国語・算数の授業が分かる」「理解できていない点の自覚」の項目について、約8割の児童が当てはまると回答しているのに対し、「国語・算数 思考・判断・表現」に対する正答率は、国語は6割、算数は約3割と開きがあります。授業で理解した基礎知識を応用する力や、算数の論理的思考力に課題があることがうかがえます。国語においては、校内研究で行っている物語文の読解では、友達と考えを共有しながら自分の解釈を深め、形成した解釈を伝え合う授業を行っており、今後も継続していきます。算数においては、学んだ基礎知識を活用して応用問題を解いたり実践的な活動に取り組んだりする機会を増やしていきます。
- ・「みんなで何かをやりとげたうれしさ」「自分のよさの自覚」については昨年度よりポイントの上昇が見られます。学校、学年行事を児童が主体的につくり上げ、その活動を認められ称賛された経験から、協力することの楽しさを感じ、自己効力感が高められていると考えます。各教科の授業や行事、委員会やクラブ活動での最上級生としての取り組みを通し、児童がさらに「学校に行く楽しさ」を味わえるようにしていきます。

全国学力・学習状況調査 6年生



